

**2025**

SUPER FORMULA  
RACE REPORT

Rd.8

8.9 [sat] - 10 [sun]

[place] スポーツランド SUGO (宮城県村田町)

[weather] sat 晴れ / sun 雨時々曇り

[spectators] 15,400人 (sat 6,200人 / sun 9,200人)

SUZUKA  
Sportsland

Rd.1-2	SUZUKA CIRCUIT	>>>>>>	MAR 07 - 09
Rd.3-4	MOBILITY RESORT MOTEGI	>>>	APR 18 - 20
Rd.5	AUTOPOLIS	>>>>>>>>>	MAY 17 - 18
Rd.6-7	FUJI SPEEDWAY	>>>>>	JUL 18 - 20
Rd.8	Sportsland SUGO	>>>>>>	AUG 09 - 10
Rd.9-10	FUJI SPEEDWAY	>>>>>	OCT 10 - 12
Rd.11-12	SUZUKA CIRCUIT	>>>>>>	NOV 21 - 23



**KDDI**

**TGR-DC**  
TGR Driver Challenge Program



2025年全日本スーパーフォーミュラ選手権 Round8 が8月9日(土)・10日(日)にスポーツランドSUGOで行われた。1レース制で行われた今回は、小高一斗がフリー走行でトップ10圏内につける走りをみせるも、予選では不運があつてタイムアタック出来ず。それでも決勝では力強い走りで追い上げて、7ポジションアップの14位でフィニッシュした。一方の野中誠太は、17番手スタートからバトルを展開。セーフティカー導入のタイミングでタイヤ交換を行い上位を目指したが、16位でレースを終えた。

KDDI TGMGP  
TGR-DC

**KAZUTO KOTAKA**  
Driver 小高 一斗

**28**

Rd.8

予選 Q1	P11 (A Gr) / 1'07.463
予選 Q2	-
決 勝	P14 / 1'15.940

KDDI TGMGP  
TGR-DC

**SEITA NONAKA**  
Driver 野中 誠太

**29**

Rd.8

予選 Q1	P9 (B Gr) / 1'06.635
予選 Q2	-
決 勝	P16 / 1'16.993

Rd.8

予選 天候:晴れ／気温:31°C／路面温度:49°C

決勝 天候:雨時々曇り／気温:26°C／路面温度:28°C

**QUALIFYING**

例年とは異なり、8月開催となった東北大会。舞台となるスポーツランド SUGOは、全面的に舗装が新しくなるなど細かな変更点もあった。今回は土曜日に予選、日曜日に決勝を行う1レース制フォーマットが導入された。ここまでマシンのセッティング面で苦しんでいたKDDI TGMGP TGR-DCの2台だが、9日(土)は、朝から気温30°Cを超える暑さのなか、フリー走行では小高一斗が上位に食い込む走りを披露。最終的に10番手タイムを記録し、予選Q2進出に期待が膨らんだ。

予選Q1のAグループに出走した小高は、他車がスピンを喫した影響を受けて、ペースダウンを余儀なくされ、11番手という不本意な結果に。それでも、後半区間ではライバルと遜色ないタイムを記録していた。Q1のBグループに出走した野中は、トップから1秒以内のタイムを刻むも、Q2進出圏内に入ることはできず9番手で敗退。決勝は17番グリッドから追い上げを目指す。

**RACE**

朝から雨模様となった決勝日。今年から新しいスペックのウェットタイヤが導入され、朝のフリー走行では各車がタイヤのパフォーマンスを確認し、午後の決勝レースに臨んだ。雨量はそこまで多くないものの、路面に溜まった水の量が比較的多いため、セーフティカーの先導のもとスタートし、6周目から追い越し可能となった。

しかし、滑りやすい路面にアクシデントが続出し、その後も2度のセーフティカーが導入された。現状を打破するために、2台共にセーフティカー導入中の21周目に新しいウェットタイヤへ交換し、上位進出を目指していく。再開後はタイヤが新しくなった利点を活かそうとするが、雨がほぼ止んだ状態で路面の水の量が減っていったことも影響して、思うようにペースを上げられない場面もあったが、2台共に最後まで諦めずに奮闘し、小高は7ポジションアップの14位でフィニッシュ。野中も16位でSUGOラウンドを終えた。



28



フリー走行での手応えを  
うまく予選・決勝につなげたい。

ドライバー 小高 一斗

土曜日のフリー走行で手応えを感じることができたのですが、予選では他車の影響もあってちゃんとアタックが出来ませんでした。それでもセクター4は全体ベストを出すことができました。決勝ではセーフティカーのタイミングでタイヤ交換をしましたが、レースが再開すると路面のコンディションとマッチせず、思うようにペースを上げられませんでした。レースに向けてセッティングの変更をしたのが裏目に出ていたかもしれません。

29



長いインターバル期間中に  
大きくアプローチを変えたい。

ドライバー 野中 誠太

決勝はフロントタイヤがかなり摩耗していたので、セーフティカーが入ったタイミングで交換しないと厳しい状況でした。2セット目のタイヤはドライビング的にもマネジメントできていたものの、ライバルとのバトルでタイヤを使うとタイヤの摩耗が進みやすかったです。そこは原因を見つけるといけない状況です。次戦までに長いインターバルがあるので、今回的小高選手が良かった部分もヒントにして、前進できるようにしていきたいです。



監督  
片岡 龍也

今回は特に小高選手の調子が良くて、上位を狙えるパフォーマンスがあるよう感じましたが、予選で他の車両のアクシデントに巻き込まれる不運がありました。決勝は雨になったことで我々にどう影響するのかと思いましたが、結果的に周りと大きな差はなくパフォーマンスが違うということはなかったです。途中でタイヤ交換をしましたが、これがうまくいったのかは判断するのが難しいレース展開でした。ただ、今回得られた兆しを次に活かすために、しっかりと検証して10月の富士大会に臨みたいです。

